

第80号

酪農とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2～3 ページ 平成26年度上半期事業実績
- 4 ページ 栃木県酪農フェア2014
- 5 ページ 第25回栃木県ホルスタイン共進会
- 6～7 ページ 東西南北（各支所）
- 8 ページ 部課だより（業務部）
- 9 ページ 部課だより（生乳販売課）
- 10 ページ 理事会だより、お知らせ、市場成績



平成26年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は4億2420万円（計画比108・2%）となり、事業利益、経常利益とも計画差で3千400万円を越える実績となりました。

下半期も2カ月を過ぎようとしておりますが、今後とも計画達成に向けて事業を推進してまいりませぬので、今後とも皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げ、以下に各部門の上半期実績について概況を報告いたします。

一・生乳販売

上半期の生産状況は、当初計画並みに推移し、7月以降は大規模酪農家の生産量が計画を上回り、加えて夏期の影響が少なかった事も重なり、生産量は11万1279t（前年比103・3%、計画比102・1%）と計画を上回る実績となりました。生乳販売高は、主に生産量の増加により120億8304万円（前年比107・1%、計画比102・8%）と計画差プラス3億2636万円の実績となりました。また、生乳計画生

産達成状況ですが、組合員への割当配分（申告）比97・6%で、関東生乳販連計画生産目標数量の101・6%でした。収支については、生産量が計画を上回ったことにより、事業利益は2億8683万円（前年比103・5%、計画比103・3%）となりました。

二・市乳販売事業

事業推進にあたり、4月の消費税値上げによる大きな影響はありませんでしたが、依然として廉売牛乳との競合は厳しいものがありました。主力の那須だいき牛乳1ℓや那須のこだわり牛乳の売れ行きはこの影響を受け減少し、那須だいき牛乳500mlも夏季までは好調でしたが、その後割高感もあり減少してしまいました。酪農牛乳やかましん牛乳はキャンペーン効果と特売日設定の増日で大きく売上を伸ばしました。

売上総数量9333本、計画比99%の実績となりました。収支は、計画外での風評被害の賠償金があり、事業利益は2202万円（計画比372・6%）とな

りました。

三・購買

飼料供給量は、酪農中止等による利用減及び価格高騰の影響による自給飼料の利用増により、濃厚飼料は4万178t（計画比98・6%）、粗飼料は1万9612t（計画比90・9%）といずれも計画減となりました。

そのようなことから利用奨励金は配合飼料1億639万円、粗飼料で1646万円、TMR等で610万円、総額では1億2896万円と計画を下回る実績となりました。

収支は飼料供給量の減となったものの、計画外で利用高配当等により1億383万円（計画比101・9%）となりました。

四・酪農指導及び流通

飼料高騰下における飼料費低減を図るため、飼料給与メニュー変更などの指導支援をはじめ、飼料基盤強化に向け良質自給飼料増産プロジェクトによる技術情報の提供や、地域による農作業受託組織の設立支援を行いました。また、良質乳生産を図るためバルクスクリーニング検査を実施し、その結果を基に改善指導に努めました。更に、当期も県北を中心に放射

性物質の影響による牧草の給与前検査が必要となり、サンプル採取の巡回や給与自粛圃場の放射性物質軽減に向けた技術支援を行いました。

補助事業関連については、新規事業として都府県酪農経営国産粗飼料利用体制強化事業（462戸）をはじめ、酪農生産基盤維持緊急支援事業（131戸）及び牛群検定システム高度化支援事業（30戸）の申請を行いました。また、担い手育成支援として9月に婚活パーティーを開催し、その結果4組のカップルが成立しました。

酪農ヘルパー事業は、定休利用が低調なこともあり計画を下回りました。（計画比95・0%）。次に、乳牛導入事業は生乳生産量を維持するための導入によりほぼ計画通りとなり、肉用化事業も更新出荷等ではほぼ計画通りとなりました。預託事業は飼料高騰の影響で預託意識が高く、計画を上回りました。（計画比105・7%）

五・改良事業

凍結精液事業で、乳用牛精液はF1生産への影響により計画を下回りましたが、肉用牛精液はスーパー市場の高騰を受け計画を上回りました。乳用牛及び肉用牛精液の合計では2万1148本となりました。（計画比95・9%）。受精卵



販売は大口利用減により大幅に計画を下回りました。(計画比23・7%)。登録業務では、血統登録証明書は消費税増税が影響し計画を下回り、その他証明書は主に牛群審査頭数が増加したことで計画を上回りました。登録事業総計では計画を下回りました。(計画比92・1%)

牛群検定事業については、お試し事業に1名が参加し成績活用の支援に努めております。改良事業の収支については、事業利益で1007万円(計画比96・2%)でした。

六、診療事業

繁殖検診事業は、新規5戸が増えたこと、夏場の検診頻度を増やしたことにより計画を上回りました。(計画比112・0%) 乳房炎防除事業はバルクスクリーニング検査を宇都宮・県南支所は全戸で実施、高原支所でも各地域・支部・班で取り組みましたが、一部の地域が10月に実施したため計画を下回りました。(計画比89・8%) 受精卵移植事業は、ホルスタインの採卵は増加したが、和牛は減少し計画を下回りました。(計画比91・4%) 移植は、和牛卵と体外受精卵(IVF)で、素牛相場の高騰や補助事業の影響により計画を上

回りました。(計画比115・2%) 診療事業収支については、事業利益で1244万円(計画比115・5%)となりました。

七、牧場事業

牧場事業は酪農とちぎの子会社である(株)酪農とちぎアグリサポートに牧場の作業全般を委託し、牧場事業の効率的な事業運営に努めております。飼養管理、衛生管理を徹底し発育向上に努めた結果、授精月齢の短縮が図れています。預託頭数は2219頭(前年比

105・2%、計画比98・6%)となりました。収支については、小林立放牧場と土上平放牧場を利用し、効率的な運営ができ、事業利益はほぼ計画通りとなりました。なお、乳用雌子牛の買取育成販売事業については、初妊牛として3頭を販売、現在2頭を飼養しており初妊牛で販売します。

八、経営管理

事業管理費は、ほぼ計画通りに推移し3億6840万円(計画比99・5%)の実績でした。

(株)酪農とちぎアグリサポート
酪農とちぎの子会社である(株)酪農とちぎアグリサポートの事業運営状況は、受託事業においては159・8haを受託し、計画比92・4%となりました。また、人的支援については、要望が多く、683・5時間(計画比124・3%)となりました。収支については、事業利益4977千円(計画比134・4%)と計画を上回る実績となりました。

平成26年上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳販売	収益	13,223,828	13,575,334	351,506	102.7
	費用	12,946,076	13,288,498	342,422	102.6
	利益	277,752	286,836	9,084	103.3
市乳販売	収益	160,283	177,291	17,008	110.6
	費用	154,373	155,268	895	100.6
	利益	5,910	22,022	16,112	372.6
購買	収益	4,255,250	4,111,284	▲143,965	96.6
	費用	4,153,360	4,007,445	▲145,914	96.5
	利益	101,890	103,838	1,948	101.9
酪農指導	収益	91,324	92,131	807	100.9
	費用	104,301	101,462	▲2,838	97.3
	利益	▲12,977	9,331	3,645	-
流通	収益	159,676	169,251	9,575	106.0
	費用	159,110	168,658	9,548	106.0
	利益	566	592	26	104.6
改良	収益	79,991	78,131	▲1,859	97.7
	費用	69,523	68,059	▲1,463	97.9
	利益	10,468	10,072	▲395	96.2
診療	収益	18,330	19,976	1,646	109.0
	費用	7,554	7,528	▲25	99.7
	利益	10,776	12,447	1,671	115.5
牧場	収益	57,940	62,695	4,755	108.2
	費用	60,422	64,972	4,500	107.5
	利益	▲2,482	▲2,277	204	-
事業総収益	18,046,622	18,286,096	239,474	101.3	
事業総費用	17,654,719	17,861,894	207,175	101.2	
事業総利益	391,903	424,201	32,298	108.2	
事業管理費	370,154	368,408	▲1,745	99.5	
事業利益	21,749	55,793	34,044	256.5	
事業外収入	25,296	25,506	210	100.8	
事業外費用	5,479	5,107	▲371	93.2	
経常利益	41,566	76,192	34,626	183.3	

同 (株)酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	27,070	29,035	1,965	107.3
費用	23,368	24,057	689	102.9
利益	3,702	4,977	1,275	134.4



栃木県酪農フェア二〇一四開催

去る10月18日(土)晴天の中、栃木県畜産酪農研究センターにおいて「ミルクの国とちぎ 栃木県酪農フェア二〇一四」が、栃木県酪農協会主催、県内5農協後援、県牛乳普及協会の協賛で、「第25回栃木県ホルスタイン共進会」と併せて盛会に開催されました。

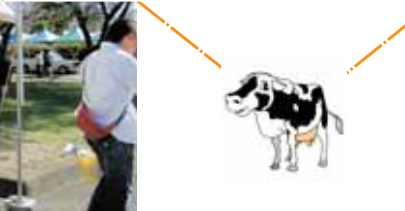
酪農フェア会場は、「ミルクの国ゾーン」と「消費者とのふれあいゾーン」とに分かれ、ミルクの



国ゾーンでは、ホルスタイン共進会が開催され県内各地から61頭の乳牛(ホルスタイン種)の審査が行われました。また、共進会会場外側では、農機具や資材業者15社が展示出店し、会場を盛り上げ、酪農家とのコミュニケーションが図られました。

消費者とのふれあいゾーンでは「ミルク王国フェア」と題し、とちぎ県産牛乳の試飲、バター作り体験、牛乳パックを使った工作コーナー、その他ゲームや豪華賞品が当たる大抽選会等、盛りだくさんの催しに多くの家族連れ等で賑わいました。また、栃木県酪農青年女性会議が行った恒例「牛乳入り豚汁」のチャリティ販売も多くの方が列をなし好評のうちに終わりました。

大勢の方々に協力を得て盛会に終了でき、消費者の理解が一層深まったものと確信いたします。



第25回栃木県ホルスタイン共進会

オールジャパンブリーダーズサー

ビス(株)取締役常務、高橋忠司氏を
審査員に迎え未経産4部、経産4
部、61頭の精鋭が県内より集結し
ハイレベルな改良成果を競い合
いました。

厳正なる審査の結果、当組合か

ら名誉賞未経産の部及び準名誉賞

経産の部には高塩浩典氏、名誉賞
経産の部には大島秀樹氏、準名誉
賞未経産の部には那須拓陽高校が
輝きました。各部位上位入賞牛結果
は別表の通りです。入賞者の皆様
おめでとうございます。



上位入賞者と共に



高橋審査員



名誉賞 経産の部
大島 秀樹 氏



名誉賞 未経産の部
高塩 浩典 氏



準名誉賞 未経産の部
那須拓陽高校



準名誉賞 経産の部
高塩 浩典 氏

第25回 栃木県ホルスタイン共進会入賞牛一覧

開催期日：平成26年10月18日(土)

審査員：高橋 忠司 氏 (オールジャパンブリーダーズサービス株式会社 取締役常務)

開催場所：那須塩原市「畜産酪農研究センター」

出品頭数：61頭

出品番号	生年月日	名 号	父 名 号	出 品 者	
				住 所	氏 名

名誉賞		未経産の部			
405	H25. 1. 2	ハーネスファーム デイストライ ローヤル	サイエンティフィック デイストライ ET	那須塩原市臺沼	高塩 浩典
		経産の部			
705	H22. 9. 30	B D Iファーム ウイス J ミズキ	ホーンランド ジエイズ ET	芳賀郡芳賀町	大島 秀樹
準名誉賞		未経産の部			
302	H25. 3. 18	タクヨウ キャリール レッドマン クリスタル	パレリバー ルベン レッドマン RED ET	那須塩原市下永田	那須拓陽高等学校
		経産の部			
606	H23. 6. 18	ハーネスファーム ダンデイ スター ルル	レーガンクレスト ダンディー ET	那須塩原市臺沼	高塩 浩典

優等賞1席

部 別	出品番号	生年月日	名 号	父 名 号	出 品 者	
					住 所	氏 名
1	110	H25. 8. 17	タクヨウ ワーデン ユカタロス	コムスター ローソリテイ ET	那須塩原市下永田	那須拓陽高等学校
2	205	H25. 5. 23	イトリフィック ファイナルカット メリー アンナ	ジレット ファイナル カット ET	那須町高久高	伊藤 高行
3	302	H25. 3. 18	タクヨウ キャリール レッドマン クリスタル	パレリバー ルベン レッドマン RED ET	那須塩原市下永田	那須拓陽高等学校
4	405	H25. 1. 2	ハーネスファーム デイストライ ローヤル	サイエンティフィック デイストライ ET	那須塩原市臺沼	高塩 浩典
5	519	H24. 1. 16	コバリ サンチエス エクストリーム	ジエマーク ストマティック サンチエス	那須塩原市青木	小針 勤
6	606	H23. 6. 18	ハーネスファーム ダンデイ スター ルル	レーガンクレスト ダンディー ET	那須塩原市臺沼	高塩 浩典
7	705	H22. 9. 30	B D Iファーム ウイス J ミズキ	ホーンランド ジエイズ ET	芳賀郡芳賀町	大島 秀樹
8	801	H21. 11. 5	イトリフィック コトミ アドベント キサラギ	KHW カイト アドベント RED ET	那須町高久高	伊藤 高行



東西南北

那須高原支所

『美しい秋』

～大田原地域でデントコーン

収穫の受託組織が稼働～

作業受託組織『アグリサポート大田原』についてご紹介します。酪農経営において、自給飼料の確保が特に重要性を増しておりますが、作業機械の導入、維持費用と飼料生産にかかる労働力が課題となっております。

大田原地域においても、飼料生産の委託希望が今後5年のうちに40haから100haまで増加すると、調査結果が得られておりました。そのような中、同地域で組合員主導によるコントラクター設立の機運が高まり、今年春から設立へ向けた検討がなされてきました。検討を重ねた末、まずはデントコーン収穫の作業受託について対応することとし、導入機械については、

組合員の保有している機械を出来るだけ借り上げる形で、新規導入を最小限とし、初期投資を抑え、



自走式ハーベスターによる収穫



細断型ベララッパによる梱包作業

組織としては、ロールラップの需要が多いことを踏まえ、補助付リース事業で細断型ベララッパ1台、ホイルローダー1台を導入することとしました。そして7月に、賛同者19名により組織が設立しました。

秋の収穫については、9月上旬から約1カ月間、32haのデントコーン収穫作業を受託し、幸い台風の影響もなく、作業のほとんどを自走式ハーベスターで行ったため、順調に収穫作業が進みました。利用者からは、「これまで個人で時間がかかっていた作業が短期間に終わり、気持ちにゆとりがもてた」、「トウモロコシをロールラップにすることで、高品質のサイレージ

を確保できた」等の感想も得られ、秋の受託作業を終えました。

支所管内では、他地域でも作業機械の共同利用、共同作業の事例があります。今後組合としても、作業受託を視野に入れたコントラクター組織の育成支援に力を入れてまいります。

行事予定

支所活動推進協議会下半期の行事予定が左記のとおり決定しました。

●支所講演会（開催済）

11月18日（火）

●牛舎環境調査・チェックシート

記載確認

11月25日（火）～12月10日（水）

●支所ポウリング大会
平成27年2月4日（水）

宇都宮支所

保育園・小学校で搾乳体験実施

10月27日及び28日の2日間青年部塩谷支部・那須南支部で搾乳体験を実施しました。

27日は塩谷支部、山本訓支部長を中心に「こどもの森こころ保育園」で年長組28名を対象に、また、28日は那須南支部、黒尾賢一支部長を中心に「江川小学校」で3年生20名を対象に実施しました。

園児・児童とも牛の大きさにびっくりし、実際に乳搾りしてみるとなかなか出ない子もいましたが、出た時の笑顔がとても印象的でした。



そして牛や牛乳に触れた感想を「気持ちいい・温かかった」と口にしていました。



小学校ではその後、バター作りを行いました。2人1組で生クリームの入ったカップを一生懸命振り、10分ほど振っているとカップの中の音が変わり、フタを開けてみるとバターが出来ていました。出来たばかりのバターをバスケットにのせて食べ、「おいしい」と子供たちの笑顔があふれていました。

両日共に天候にも恵まれ、牛や搾りたての牛乳に触れてもらい、柔らかさや温かさを体感してもらったことが出来ました。

行事予定

支所活動推進協議会下半期の事



業について左記のとおり決定しました。

●花の苗配布（配布済）

11月4日(火)・20日(木)

パンジー・ビオラの他に今回は、チューリップの球根を配布し、牛舎環境美化に努めます。

●生乳生産チェックシート記載確認及び牛舎周辺環境美化巡回

12月2日(火)～5日(金)

●バルクスクリーニング検査実施

平成27年1月実施

(各地域、新春懇談会時回収予定)

県南支所

『2地域合同研修会』開催

11月11日、芳賀地域酪農組合（小林隆志組合長）と河内南部・下都賀地域酪農組合（根本壽一組合長）による合同研修会を県南支所にて開催し、40名が参加しました。今回の研修は、今年7月に関東生乳販連会長に就任した菊池一郎氏（酪農とちぎ代表理事理事長）を講師として、「酪農情勢とこれからの酪農産業の方向性」と題し講演をいただきました。

内容は多岐に渡りましたが、まず乳価交渉について、乳価の引き上げが製品価格の上昇につながり、結果的に需要不振を招く可能性もあるため、立場上様々なリスクも含めて考える必要があり、責任の重さを実感している。

次に、後継者の問題は酪農家に限った事ではないが、全国的に後継者がいない事実を受け止めた上で、酪農生産基盤の弱体化は日本の食料や農村をどうするかという視点で施策を考える必要がある。仲間づくりを大切にして、今は厳しくてもここを乗り切れば良い思いができるかと信じて踏ん張って欲しい。

また、組織の再編や集送乳の合理化も含め多くの課題については、

役員である我々も常に検討している。本来は組合員各々がどう考えるかで決まるので、正し

い情報を集め、考え、意見を反映して頂きたいと述べられた。

研修会終了後には、支所協議会事業として、パンジーとビオラの花の苗を配布しました。これからも環境美化に取組みチェックシートの記載・記録と併せて、安心・安全な生乳生産をお願い致します。なお、牛舎環境調査は、12月9日～12日に予定しております。

行事予定

支所活動推進協議会下半期の行事予定が、左記のとおり決定しました。

●全体交流会

12月4日(木)

バーベキューやビンゴゲーム等が開催されます。

●税務申告学習会

年度末まで随時

組合員の根本壽一氏（ソリマチ農業ソフト認定アドバイザー）と石川明氏による記帳及び青色申告決算書作成指導の実施

●確定申告相談会

3月上旬

齋藤税理士による申告指導



部課だより

業務部

第14回全共に向けたセミナー

「出品マナー&ショウリング研修会」

開催

来る平成27年10月23日(金)～26日(月)に開催される「第14回全日本ホルスタイン共進会」に向けて、10月19日那須拓陽高校乃木農場において、県酪農協会主催「出品マナー&ショウリング研修会」が開催されました。

ウリング研修会」が開催されました。講師には、その前日に開催された県ホルスタイン共進会の審査員であるABS(株)高橋忠司氏を迎え、参加者40名のなか出品牛の馴致の仕方や飼養管理上の注意点等、さらには模範演技も絡めて行われました。特にショウリングでの「牛を美しく優雅に見せる」リードマンの技術は、実技を通して大変勉強になったことと思います。当日は酪農家をはじめ次代を担う高校生が受講され、充実したセミナーとなりました。



～第14回全日本ホルスタイン共進会～

1. 会期・場所(集合審査)

- (1) 会期：平成27年10月23日(金)～10月26日(月)
- 10月23日(金) 開会式、測定、写真撮影
- 10月24日(土) 審査、講評
- 10月25日(日) 審査、講評、チャンピオン決定
- 10月26日(月) 上位入賞牛パレード、閉会式

- (2) 場所：北海道ホルスタイン共進会場
(北海道勇払郡安平町)

2. 出品区分・頭数 18部門 400頭

- (1) ホルスタイン種：一般：10部門260頭、
後検娘牛の部：4部門80頭、
高校特別枠：20頭(該当月齢区分に出品)
- (2) ジャージー種：一般4部門40頭

平成26年度ジャジング・スクール開催

～21都道府県から127名参加～

10月31日から11月1日の二日間、全国ホルスタイン改良協議会主催「ジャジング・スクール」が本県ホルスタイン改良同志会共催のもと、那須塩原市那須家畜市場において開催されました。



このスクールは酪農家の「牛を見る目」を養成し、酪農経営の健全な発展と次代を担う後継者の育成を期すると同時に、牛飼い仲間の親睦交流を目的として昭和57年に本県の自由学園で第1回を開催して以来、毎年全国各地で開催場所を変えながら、今年で36回目を向かえました。今回のパネラーはABS(株)取締役常務の高橋忠司氏が務め、共進会の審査が出来る実務者を数多く輩出している企画であります。

○序列付けと審査講評技術の研修

今回は、初回受講の「一般」40名、2回目以降の受講者である「ジャジマン候補」46名、全国で

活躍中の「認定ジャジマン」12名、県立高校の学生13名、そして関係者を含めて21都道府県で総勢127名(うち本県27名)が



参加し、「牛の見方」について二日間熱心な研修が行われました。

初日、一般クラスは講義室でホルスタインの審査標準をはじめ乳牛審査の優先順位や好ましい審査手順、審査講評のポイントについて講習を行い、ジャジマン候補クラスは家畜市場に移動して未經産牛1クラス、経産牛2クラス(4頭1クラス)の序列付けを行い、指名された受験者が審査講評をした後に、パネラーの高橋氏による模範解答に基づきディスカッションを行うという流れで進行了ました。二日目は未經産牛2クラス、経産牛2クラスについてそれぞれ序列付け・審査講評を行いました。この研修を通じて参加者は、全国の仲間を増やしながら、「健康で生涯にわたってよく働く牛、機能的に優れた牛」を見極める技術について理解を深めました。



生乳販売課

平成26年10月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し103.4%(1万8509t)と、36ヶ月連続し前年を上回る生産です。累計の受入乳量は、那須高原支所8万1147t(前年比106.2%)、宇都宮支所1万8396t(前年比99.1%)、県南支所3万0244t(前年比98.5%)、合計で12万9788t(前年比103.3%)となり、那須高原支所の生産量が大きく前年を上回る状況です。直近の生産動向は、那須高原支所は大きく前年を上回り、宇都宮支所は若干前年を下回り、県南支所は2%程度前年を下回る状況となっています。出荷者数は、前年同月より20戸減の476戸(内、学校は3校)でした。

また、10月度及び年平均乳質は、脂肪率、無脂固形分率については回復基調で前年並み、細胞数は前年より向上しております。

尚、10月迄の累計不合格件数は555件となり、前年(712件)を大きく下回りました。

関東生乳販連の10月総受託乳量は、生産量の減(24ヶ月連続)により、前年比98.1%と1743t程減少し、累計でも97.1%、マイナス1万9163tの状況です。

10月の用途別の販売数量は、生乳生産量が前年比98.1%に対し、飲用向けが前年比97.8%と前年下回りましたが、発酵乳向けが増加したため、加工率は4.01%と前年を下回る値です。尚、10月迄

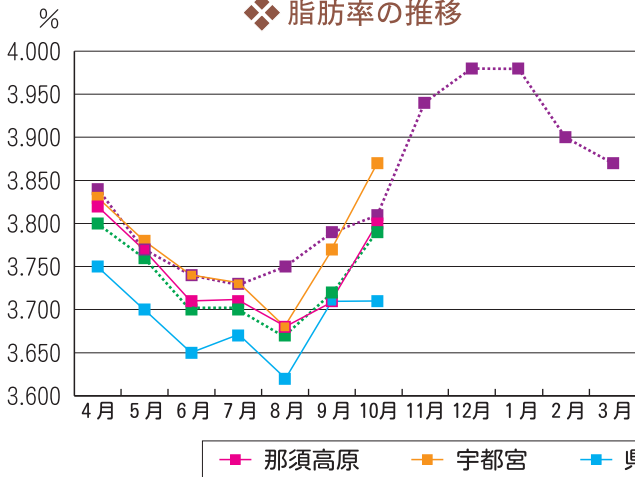
関東生乳販連用途別販売数量

(単位: kg・%)

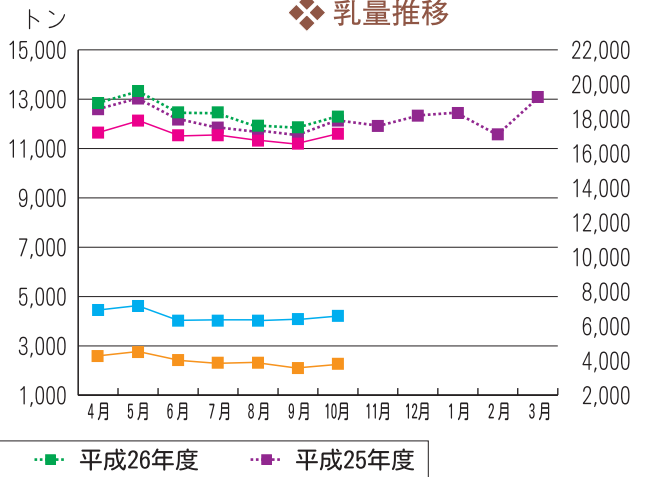
用途	10月実績	前年実績	前年比	累計実績	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	71,279,903	72,876,481	97.8	483,644,707	497,820,039	97.2
(うち学校向け)	12,847,026	13,276,138	96.8	69,414,945	70,801,415	98.0
はっ酵乳向け	13,309,533	12,946,452	102.8	93,912,123	96,799,392	97.0
特定乳製品向け(加工)	3,601,881	3,973,996	90.6	55,365,329	57,250,420	96.7
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,571,398	1,721,200	91.3	12,613,212	12,804,867	98.5
チーズ向け	77,975	66,182	117.8	414,140	438,231	94.5
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	89,840,690	91,584,311	98.1	645,949,511	665,112,949	97.1
加工比率	4.01	4.34	-	8.57	8.61	-

の累計値については、生乳生産量が前年比97.1%に対し、飲用向けが97.2%と若干上回りました。加工率については8.57%と前年(8.61%)を若干下回る状況です。また、全国の生産量(10月現在)は前年比98.5%と、北海道(99.5%)も含め前年割れが続いています。都府県(97.3%)はさらに低調で推移しており、今後も全国的に減少傾向が続く見込みです。尚、平成26年10月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

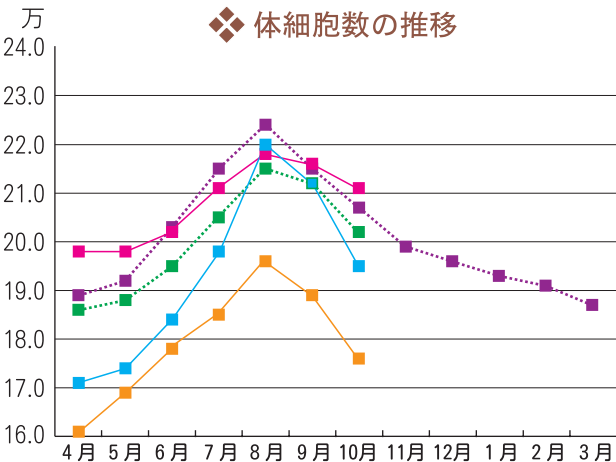
◆ 脂肪率の推移



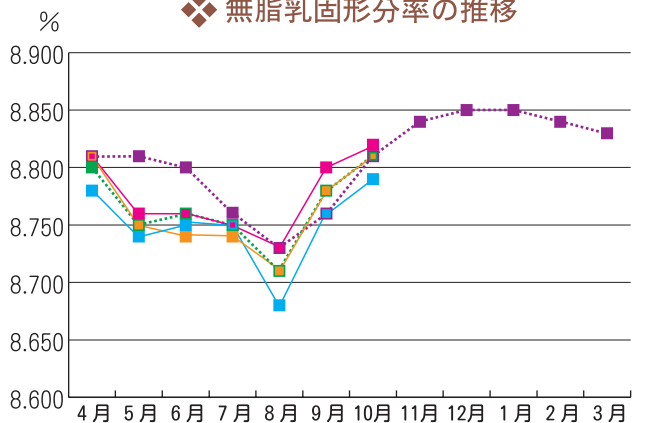
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



理事会だより

9月度理事会（9月29日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 固定資産の取得について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について

協議事項

- (一) 8月度事業実績について
- (二) 配合飼料等特別奨励措置について

10月度理事会（10月30日）

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (六) 酪農ヘルパー事業円滑化基

金の返還について

- (七) 子会社等の上半期事業実績について
- (八) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について

お知らせ



職員人事

新規採用（10月1日付）



那須高原支所
業務推進課

伊藤 弘之

今年、9月に帯広畜産大学を卒業し、那須高原支所に配属になりました。出身は鹿沼市です。技術、知識共に至らないところが多いですが、いち早く皆様のお力になれるよう努めて参ります。何卒よろしくお願ひ致します。



2015 in おやま

「とちぎ花フェスタ」の開催

毎年栃木県内で開催されている「とちぎ花フェスタ」が平成27年は、2月7日(土)～9日(月)にかけて小山市の栃木県立県南体育館で開催されます。

「とちぎ花フェスタ」は、平成9年度から開催している花の総合イベントで、会場内には、県内で生産された花々（ばら、きく、ゆり、洋らん等）およそ3万本が大集合し会場を彩ります。

この機会に是非足を運んでみてはいかがでしょう。

詳細は、左記の通りです。

とちぎ花フェスタ

2015 in おやま

期間：2015年

2月7日(土) AM10:00～PM4:00

8日(日) AM9:30～PM4:00

9日(月) AM9:30～PM3:00

会場：栃木県立県南体育館

入場料：(前売) 500円

(当日) 700円

10月度 ホクレン初妊牛市場成績 [単位：千円 (税込)]

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	10月2日	358	296	82.7%	538	34	17	670
十勝	10月6日	502	380	75.7%	544	51	40	684
北海道	10月10日	135	102	75.6%	504	25	19	667
豊富	10月16日	321	166	51.7%	500	2	0	0
根室	10月20日	439	328	74.7%	559	37	22	656
釧路	10月21日	261	200	76.6%	528	6	1	649
十勝	10月22日	508	395	77.8%	559	67	62	699
北見	10月23日	438	266	60.7%	502	10	3	517
合計		2,962	2,133	72.0%	536	232	164	679
前月		2,685	2,028	75.5%	536	196	168	639
前年同月		3,172	2,350	74.1%	502	186	147	617

初妊牛の今後の動向は、2月分娩腹が中心となります。道内では夏季放牧地からの下牧が終了し、資源的には豊富となり年内は活発な動きとなりますが、年明けについては自家保留し搾る動きもあり、酪農家からの出回り頭数は減少傾向も予想されます。導入を希望される方は、分娩腹の条件、価格等に十分余裕を持ってお申込み下さいますよう、よろしくお願ひします。

10月度 県内家畜市場成績 [単位：円 (税込)]

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(10/30)	ホルス雄	176	170	62	57,240	110	25,798	▲3,952
	F1雄	144	143	61	226,800	83,160	166,743	8,084
	F1雌	115	114	56	169,560	5,400	123,291	10,360
館林(10/27)	ホルス雄	2	2	83	36,720	19,440	28,080	前回出場無し
	F1雄	10	10	97	227,880	162,000	203,688	▲38,502
	F1雌	13	13	90	206,280	112,320	167,981	▲24,169

素牛相場や枝肉相場等の動向により、初生牛の取引価格は高値相場から若干落ち着いた傾向で推移しています。

